

みんゆう 随想

同伴のAさんは登山歴3年の初級者で、昨年の魚沼駒ヶ岳、巻機山、苗場山に続いての山登りなので、無理せず小屋泊まりの計画。初日は8合目の避難小屋を目指しました。

Aさんの歩きは速く、途中の休憩が多いタイプ。私は遅く途中休憩ほしくないタイプなので、Aさんを先に後から付いて行きました。

森林に囲まれた登山道で新鮮な酸素を胸一杯吸い込んで、楽しそうに、まるでカモシカのような速さで、すぐに姿が見えなくなり「内緒でトレーニングをしてい

渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング
代表取締役



山に魅せられて(13)

たのかもしれない」と疑い半分の観望と、遠くには礼しいご来光に手を合わせました。暫く登ると、下山文島を眺め、好天に恵まれたことに感謝しました。初日の行程である避難小屋には17時30分到着。Aさんからもストリートに伝わり、5時に一番登頂を果た

んが上で待っていますよ」と声を掛けてくれたので、益々疑いは深まりました。Aさんからは初めましての小屋泊まりなり、人生の素晴らしさを味わいました。遠くから見る

「人は人、自分はマイペースで、どうせ最後は兎さんと亀さんになるからに掛かりました。コンロで

「と、焦らず2く3く4 お湯を沸かし、餅っこラーを一周することにし、先ず

く5合目と亀さんのようにメンをつくり、持ち込んだ会津藩士のお墓参り。昼・確実に高度を稼ぐと、徐々 おかずと果物で済ませ、小夜の食材を調達して、観光

に展望が開け、6合目の第 屋置き荷物を纏め、早朝出 スポットで休憩しながら荒

1見晴台でチャッカリ休憩 発の準備をして寝袋に入り 々しい裏からの利尻岳の見

中のAさんと合流。私は休憩も取らず、次の絶景である 手が届くような満天の星 難関の山、幌尻岳へ快適な

足跡を辿りながら、利尻島 3時半に出発。9合目で眩 ドライブを続けました。